

## 上越市における日本共産党候補の得票・得票率

	今回の得票	今回の得票率	前回の得票	前回の得票率
選挙区選挙	3942	4.18	5933	5.89
比例代表選挙	6020	6.55	4308	4.29



上越市においては、比例で得票を1.4倍に伸ばし、全国的な躍進に貢献しました。一方、新潟選挙区は、自民、民主、生活3党の競り合いのなかで前回よりも後退しました。

選挙戦全体では、自民党・公明党の与党が過半数を獲得しました。選挙戦の結果、「衆参のねじ

注目の参院選は21日、終わりました。この選挙で、自民党の暴走政治を批判し、原発から自然エネルギーへの転換、消費税増税中止など国民の暮らしを守る対案を示して闘った日本共産党は、比例代表選挙での「5議席絶対確保」の目標を達成し、3つの選挙区で勝利して、改選前の3議席から8議席へ大躍進しました。参議院で非改選と合わせて11議席となり、議案提案権を得ることができました。

# 日本共産党、改選3議席から8議席へと大きく前進 自公が過半数を占めたことで日本共産党の役割、いっそう大きく

れが解消した」といわれますが、国民多数の声と自民党政治との「ねじれ」はいっそう深刻になっていきます。消費税増税、原発再稼働、憲法9条改定、TPP問題、米軍基地問題など、直面する国政の重要課題をめぐって、安倍内閣の姿勢と国民との矛盾は、いよいよ深まり、激動的な危機が進展していかざるをえません。

選挙結果を受けて日本共産党上越地区委員会の上野公悦委員長は、「10数年ぶりに躍進することができた。応援してくださった皆さんに心から感謝したい。自公が半数以上となったことで、暴走政治に待ったをかける日本共産党の役割は一層大きくなった。頑張る」とのコメントを発表しました。

## 市内4か所のボブスレー場で安全管理の実態などを調査

日本共産党議員団は23日、上越市内にある4か所のボブスレー場（安塚区のキューピットバレイ、吉川の尾神岳、名立のシーサイド、金谷山）の視察をしました。今回の視察は夏休みを前に安全管理がどうなっているかなどを確認することでした。

どこのボブスレー場でもお客さんを気持ち良く迎えるためにレーンのそばに花を植えるなど工夫がしてありました。

その一方で、安全管理上、問題点もいくつかありました。その主なものをあげますと、①レーンが浮いているにもかかわらず、コンクリートブロックなどで応急措置しかしてないところがある。②索道を動かす主要機械が丸出しになっている。③雪に押され、傷んだレーンを緊急対応し



であるものの、人間が接触すると大怪我をする可能性のあるところがある。④レーンのつなぎ目に溝ができていて、ヘルメットが傷んでいるところがある。⑤ヘルメットが複数あるのに処分していないボブスレー場が複数ある。⑥カーブミラーや危険標識が見えにくく、使いものにならないボブスレー場もある。⑦草刈りが間に合っていないボブスレー場もある、などです。

この日は、観光振興課の担当副課長と一緒に回っていますので、その場で指導が必要などころへは指導を、予算が必要などころには予算づけを要請しました。

日本共産党議員団では、現在、市用地管財課が進めている調査とも照らし合わせながら、安全管理を徹底するよう引き続き、市に働きかけしていきます。（写真右上は尾神岳、右下はキューピットバレイのボブスレー場です）



【オカトラノオ】漢字で「岡虎の尾」と書きます。サクラソウ科の植物で花は白、花の形が虎のしっぽに似ています。写真は安塚区のキューピットバレイスキー場にて撮影したものです。

すごい人がいるものです。今年の六月で八四歳になったばかりだといいますが、パソコンを操作し、郷土に残っている古文書などの史資料の整理をコツコツとすすめている。しかも、誰もが読めるデータに編集しているのです。

この人は旧大島村の教育長を八年余り務めた高橋英夫さんです。先日、初めてお会いし、話を伺ってききました。急な訪問にもかかわらず、高橋さんはお連れ合いとともに笑顔で私を迎えてくださいました。

コーヒーを飲み始めるとまもなく、高橋さんは私が見たいと思っていた内山盛之助（うちやま・もりのすけ）の日記の原本をテーブルの上に出してくださいました。

盛之助は旧東頸城郡嶺村の「いんきよ」（屋号）の出身で、私の母の実家、「のうの」（屋号）の自家の人です。日記には一八七七年（明治一〇）から一九一二年（明治四五）までの間の農作業や日常の暮らしのことなどが記録してありました。日記は全部で二六冊にもなっています。全部を重ねると、高さは一五センチになりました。

高橋さんは日記を束ねたものをテーブルの上に置くと、「尾神岳での遭難のあと、徳之助はじきに安塚に大持引きに行っているんだよね」と言われ、びつくりしました。徳之助は「いんきよ」から分家した「足谷」（あしだに。屋号）の先代、あるいはそれより一世代前の人だったからです。この家もわが家の親戚です。

私が高橋さんから盛之助の日記を見せてもらいたいと思うきっかけとなったのは、今月の一日、「足谷」の従兄を通じて「竹平内山家の年中農作業等記録」という題名の小冊子をいただいたことにはじまります。

この冊子は、盛之助日記のうち、一八八三年（明治一六）の記録を抜きだし、高橋さんがわかりやすく編集されたものでした。冊子を手にしたばかりの時は、「時間があつた時に家で読んでみよう」と軽く考えていたのですが、同日、私はこの記録の表紙を「のうの」で改めて見て、胸がふるえました。「なに、明治一六年……」、私はお茶をいただきながら、冊子をめくりました。ひよつとすると、明治一六年三月二日にあつた尾神岳の遭難事故のことが記録されているのではないかと思つたからです。

予感的中しました。東本願寺の再建に使うケヤキをソリにて運ぶ途中、二七人も犠牲者を出した尾神岳の雪崩事故のことが、わずか数行ではありましたが記録されています。しかも、現場には盛之助自身がいたのです。

当日の記録には、「雪ちらちら降る。此日盛之助御本山大持引に出る。川谷上より大神嶽のクシを通り、大神村・川谷村地境にて山より『大雪ナゼ』が出、大勢『雪ナゼ下』に相成る……」とありました。「これはたいへんな史料だよ」と従兄夫婦に繰り返し語つたものです。

さて、高橋さんのところでは、尾神岳の遭難事件に関連する日の記録を写真に撮つた後、高橋さん夫婦と話がはずみましました。記録に書かれている「カヤ刈り」がなぜ四月に行われたのか、「春木」で使われたねじり木はマンサクだけじゃなかったのかなど、次々と話が続きました。そして、私が読みたいと思つていた原本の写しが安塚の添景寺の長尾先生のところへ最近送付されたことも知りましました。

いまから百年以上も前の記録、盛之助日記はいま、高橋英夫さんの努力によって光が当てられました。この日記はまだなぞの多い尾神岳遭難事故の解明だけでなく、私たちの暮らしの在り方にも大きな影響を与えるかも知れません。

## 豊前市の空き家バンクなどを視察

市議会総務常任委員会は4日、福岡県豊前市を訪れ、同市の空き家バンクや「空き地及び空き家管理の適正化条例」の取り組みを学ぶことができました。

空き家バンクの取り組みが停滞している自治体が多い中で、同市は担当職員を専任化し、市内の不動産業者とも協力関係を維持しながら実績をあげているのには感心しました。同市の条例には、措置命令を出しても不適切な管理状態が改善されない時は代執行できることが盛り込まれていますが、簡単にはいかない現実であることもわかりました。

同市の空き家バンクは正式には、「豊前市空き家情報バンク」と言います。「豊前市民と都市住民との交流の拡大を図り、定住促進による地域の活性化を図ることを目的に」平成23年度から取り組みが始まりました。市内には750軒ほどの空き家があつたそうですが、これを、A（使用可）、B（軽微な修理必要）、C（大規模修理が必要）、D（半壊）、E（全壊）に区分しました。このうち、A、B対象に調査し、住める空き家は約300軒とした

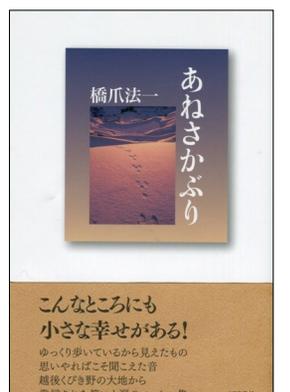
うえで、さらに詳しく調査して絞り込み、68軒をバンクに登録したそうです。この登録数に対して購入または借家の希望数は125件になり、これまで契約が成立したのは30件とのことでした。担当者の説明では、「同じ県内でも担当者を専任化しているところとそうでないところとで差が出ている」「利用者は多いのに登録件数が少ない」と言います。

同市の「空き地及び空き家管理の適正化条例」は、元々、空き地で草や木が伸び放題となっていることの苦情から出発し、平成22年から「空き家」も入れる改正をしたそうです。この条例のなかには「措置命令」に従わなかった場合には代執行できるという全国でもめずらしい規定が盛り込まれていますが、実際にはまだないということでした。

※私の随想集、『あねさかぶり』（1000円）は在庫があります。ご希望の方は連絡を！

## 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	7月17日(水)	7月24日(水)
上越南消防署	0.033	0.040
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.053	0.047
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.040	0.050
東頸消防署	0.047	0.047
高土分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.057	0.057



こんなところにも小さな幸せがある！  
ゆっくりに読んでから見たもの  
思いやればこそ聞こえた音  
越後くび野の大地から  
発信された笑いと涙のエッセー集